

日本と台湾がつながる ささやかにひとを慈しむ時間

Time to love somebody kindly and to connect Japan and Taiwan.

台湾映画界の巨匠侯孝賢を監督に、小津安二郎生誕100年を記念して、2004年に日本で製作された映画「珈琲時光」。

小津へと捧げられたこの台湾からのオマージュが、今年、まったく新しい舞台作品として生まれ変わる。

台湾・Shakespeare's Wild Sisters Groupの王嘉明、日本・第七劇場の鳴海康平による共同演出、日台混成チームでの共同製作作品。

家族、距離、歴史などを主題とした、時代の異なるいくつかの短編が平行して進行する舞台空間。

決して交わるはずがない、それぞれの時間が、ゆるやかにつながりながら、

言葉や歴史や違いを超えて、ささやかにひとを慈しむ時間を上演する。

A new creation resulting from the collaboration between Dainagekijo based in Mie Prefecture and Shakespeare's Wild Sisters Group based in Taipei, now in its third year. This theatre is inspired by the film "Café Lumière," directed by Taiwanese director Hou Hsiao-Hsien as a homage to the great Yasujiro Ozu, and depicts encounters between Japanese and Taiwanese living in the present day.

企画協力: 侯孝賢 Inspired by: Hou Hsiao-hsien

脚本: 王嘉明 Script: Wang Chia-Ming

演出: 王嘉明、鳴海康平 Directed by: Wang Chia-Ming, Narumi Kouhei

舞台監督: 北方こだち Stage manager: Kitagata Kodachi

照明: 島田雄峰 (LST) Lighting: Shimada Yuho (LST)

音響: 平岡希樹 (現場サイド) Sound: Hiraoka Mareki (GENBA side)

衣裳: 新萍萍 Costume: Chin Pin-Pin

台湾側プロデューサー: 新田幸生 Producer (Taiwanese): Nitta Yukio

演出助手: 盧琳 Assistant director: Lu Lin

翻訳: 陳汗青、林佳祥 Translation: Nitta Yukio, Lin Jia-Xiang

舞台写真撮影: 松原豊 Stage Photograph: Matsubara Yutaka

宣伝美術: 橋本純司 AD designer: Hashimoto Junji

日台国際共同プロジェクト Notes Exchange

三重県津市を拠点とする第七劇場と、台湾・台北を拠点とするShakespeare's Wild Sisters Group.

国際的に活動する、この2つの現代演劇のカンパニーと三重県文化会館による、2016年から3年間にわたる国際共同プロジェクト。

1年目はドストエフスキー、2年目はジョージ・オーウェルを題材に協働作品を日本と台湾で上演。

3年目のプロジェクトフィナーレは製作に金沢21世紀美術館も加わり、東京、台湾、三重、金沢でのワールドツアーを実施。

出演 Casts

台北 Taipei

Fa

圈圈 Huen Sze Man Suzanne [日本公演]

朱安麗 Chu An-li [台湾公演]

三重 Mie

佐直由佳子 Sajiki Yukako

小菅紘史 Kosuge Hiroshi

木母千尋 Kibo Chihiro

菊原真結 Kikuhara Mayu

三浦真樹 Miura Masaki

静岡 Shizuoka

鈴木真理子 (SPAC)

Suzuki Mariko (SPAC)

金沢 Kanazawa

西本浩明 (演芸列車「東西本線」)

Nishimoto Hiroaki (Performing Arts Train "To-Zai Honsen")



鳴海康平 Narumi Kouhei

第七劇場、代表・演出家。Théâtre de Belleville、芸術監督。1979年北海道紋別市生まれ。三重県津市在住。早稲田大学在籍中の1999年に劇団を設立。「風景」によるドラマを舞台作品として構成。国境を越えることができるプロダクションをポリシーに製作し、ストーリーや言語だけに頼らないドラマ性が海外で高く評価される。ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス・2012年)として1年間渡仏し活動。帰国後2013年に日仏協働作品「三人姉妹」を新国立劇場にて上演。

第七劇場 Dainagekijo

1999年、演出家・鳴海康平を中心に設立。主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価される。国内外のフェスティバルなどに招待され、これまで国内20都市、海外4ヶ国7都市(フランス・ドイツ・韓国・台湾)で作品を上演。2014年、東京から三重県津市美里町に拠点を移設し、倉庫を改装した新劇場 Théâtre de Bellevilleのレジデントカンパニーとなる。http://dainagekijo.org



王嘉明 Wang Chia-Ming

20年以上、先進的な演劇を製作し続け、常に伝統と革新、大衆性と前衛性を融合させた作品を発表。近年は賛否両論を起す言語表現や演劇の音/音声のパフォーマンスの新しい可能性の探求に取り組む。限界を拡張するだけでなく、総合芸術としての演劇の定義を豊かにするために、ジャンルを越境してアーティストと協働。演劇に加えて、広告CMのアシスタントや、ミュージックビデオ、ファッションショーのディレクター、高雄ワールドゲーム2009のオープニングアクトのディレクターを務める。

Shakespeare's Wild Sisters Group 莎士比亞的姊妹們的劇團

1995年夏に設立。「シェイクスピアの妹たち」の意である劇団名は、イギリスの作家ヴァージニア・ウルフの「自分だけの部屋(A room of One's Own)」の登場人物が由来。独創的な美学とスタイルを模索し続け、毎年実験的な新作の発表と国内外との文化交流を行う。1997年以降、多くの国・都市に招かれ、これまでに香港、マカオ、北京、青島、釜山、東京、ベルリン、シンガポール、神戸、パリ、アヴィニョンなどで公演。http://www.swsg95.com.tw

